



万年筆の秘密基地

しくみ

第2回 すらすら書ける万年筆の中身

みなさん、こんにちは！『万年筆の秘密基地』です。今回から、万年筆の『しくみ』についてお話していきます。

みなさんは、万年筆がどんな部品でどれくらいの数から成り立っているのか、気になったことはありませんか？実は、万年筆の部品数は、ボールペンやシャープペンと比べると多いのです。

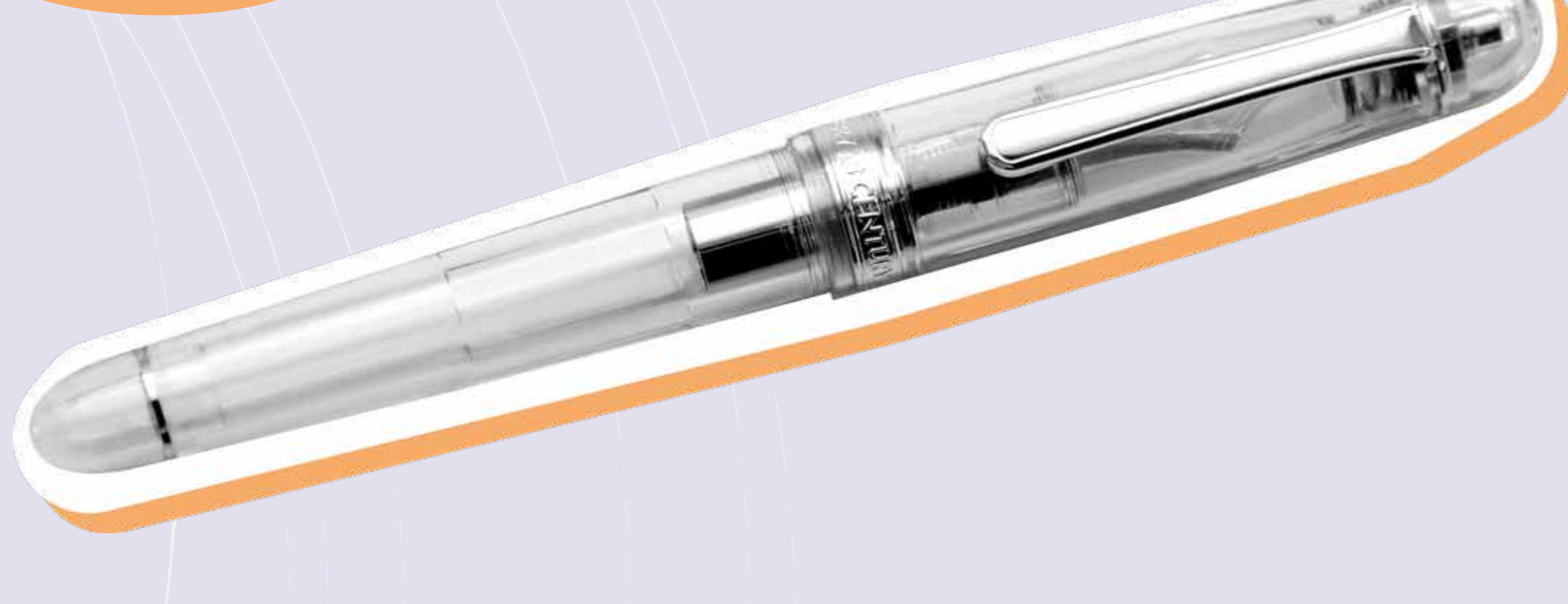
ということで、第2回は万年筆の秘密を探るべく、当社の万年筆を例に、中身を特別にお見せします！

！みなさんは分解しないでください！

企画として万年筆の中身を特別に紹介しています。部品ごとに細かく組み合わさっているため、一度分解してしまうと、正常に機能しなくなる可能性があります。

また、分解してしまうと保証対象外となりますので、ユーザーのみなさんは分解しないでください。

万年筆とは



万年筆とは、ペンの先端にペンポイントという小さな金属がついていて、さらに、万年筆の中にあるインクが「毛細管現象※」によってペン先に伝わることで、文字を書くことができる筆記具のことを言います。

※毛細管現象については、別の回で詳しく紹介します。

万年筆の原型は、今から 1,000 年以上前のエジプトで誕生したと言われていています。そんな長い歴史のある万年筆は、どんな部品で構成されているのでしょうか？当社の代表的な万年筆「#3776 CENTURY(センチュリー)」で中身を見てみましょう！

万年筆を構成する3つの柱

キャップ

先軸(首軸)

胴軸



多くの万年筆は、「キャップ」「先軸(首軸)」「胴軸」の3つのグループで構成されています。

※名称は各メーカーによって異なります。

「キャップ」は、インクの乾きやペン先を守る。

「先軸(首軸)」は、インクの出をコントロールする。

「胴軸」は、インクを保護しつつ、見た目やにぎりやすさに大きく影響しているグループです。

ここまでは見たことがある方もいるかと思いますが、今回はさらに細かいところまで見てみましょう！

(みなさんは絶対に分解しないでくださいね。)

てんかん
天冠

ナット

#3776 CENTURYのナットには、富士山の形をしたものもあります。

さや
鞘

刃物を包み、先端を保護する役割がある「鞘」から由来しています。

クリップ

天ビス

バネ

インクの乾きを防ぐ、当社独自の「スリップシール機構」を構成する部品たちが入っています！

中ザヤ

ペン芯

ペン芯の加工には、万年筆メーカー各社の技術力が詰め込まれています。

ペンポイント

ペン先

万年筆の書き心地を左右する要素のひとつ。金やステンレスで出来ています。

カバー(グリップ)

中ネジ

insert!

胴

先軸に差し込んだコンバーターやカートリッジインクを守ってくれます。

カートリッジインク

or
コンバーター

尾飾(尾冠)

#3776 CENTURYをはじめ当社万年筆は、これらのパーツを1本1本手作業で組み立てています。

今回は、万年筆の中身がどんな部品で構成されているのか、分解して名前を紹介しました。次回以降は、「キャップ」「先軸(首軸)」「胴軸」それぞれのグループに分けて深掘りしていきます。

次回は早速、万年筆の心臓部「先軸(首軸)」について、くわしくお話していきます。お楽しみに！

© PLATINUM

JAPAN 1919